国際交流事業年報 2026



浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

ご 挨 拶



学長特別補佐（国際担当）
国際化推進センター長 / 医化学講座
教授　才津 浩智

皆さま、こんにちは。浜松医科大学　国際化推進センター長と学長特別補佐（国際担当）を拝命しております、医化学講座の才津浩智です。平素より本学の国際交流事業に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

国際化推進センターでは、医療・医学研究のグローバル化が進む中で、国際的な視野、語学力、異文化理解力を備えた医療人・研究者の育成を目指し、国際教育、留学生支援、学術交流の推進に取り組んでおります。本学では、海外臨床実習や基礎研究分野における短期海外留学など、学生が海外の医療・研究現場を経験する機会の充実を図ってまいりました。2025年には48名もの学生が海外留学を経験しており、異なる医療制度や文化、研究環境に触れる貴重な機会となっています。

また、海外から本学への留学生・研究者の受け入れも着実に進んでおります。本年度7月時点で、博士課程等に在籍する大学院留学生は36名となっており、本学の教育・研究の国際化に大きく貢献しています。昨今の物価高を受けて、留学生が安心して研究に取り組めるよう、奨学金制度の見直しや学生寮の部屋数の確保など、国際化推進センターとしても環境づくりに取り組んでまいります。

このほか国際的な教育・研究交流の一環として、海外の第一線で活躍される先生方を講師にお迎えしたFD講演会も開催いたしました。2026年2月には、米国ロチェスター大学のSusan H. McDaniel先生をお招きし、医師と患者のコミュニケーションに関する講演を開催いたしました。共感や患者理解の重要性、コミュニケーション改善に向けたコーチングプログラムについてご紹介いただき、医療者教育を見つめ直す貴重な機会となりました。

さらに6月には、米国ハーバード大学医学部／Beth Israel Deaconess Medical Centerの Kenneth J. Mukamal先生を講師に迎え、研究メンタリングとアカデミック・キャリア開発に関するFD講演会を開催いたしました。臨床教育に研究要素を導入し、次世代の研究者を育成するための実践的な取り組みをご紹介いただき、若手研究者育成や国際的な教育連携を考える上でも大変有意義な内容でした。

9月には、コロナ禍を除いて毎年開催されております慶北-浜松合同医学シンポジウムの第23回を浜松で開催いたしました。こうした取り組みを通じて、引き続き、学生・留学生・教職員が国際的な環境の中で学び、研究し、成長できるよう、国際化推進センターとして全力で取り組んでまいります。今後とも、本学の国際交流およびグローバル人材育成にご支援・ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

英国・ロンドンでの研究室運営

子どものこころの発達研究センター
センター長／教授　千住　淳



2026年4月撮影。英国勤務当時に博士学生であったOlga Sutskova博士、Olgaの共同指導を行なったTim Smith教授と、ロンドンで再会した時の様子。
2人が勤務するロンドン芸術大学のVRラボにて。

本学に奉職する前、2005年から2021年まで、私はロンドン大学バックベック校にてリサーチフェロー・准教授として勤務しておりました。2011年に英国Medical Research Council から大型研究助成を獲得し、独立した研究グループを主宰するようになってからは博士課程の学生の受け入れも始め、通算で7名の博士学生の指導に携わりました。つい最近、最後まで頑張っていた学生が無事学位を取得し、一つ肩の荷を下ろした気分になっております。当時の学生の皆様は、イェール大学やスタンフォード大学など、米国の一流大学で研究者として活躍する方、母国に帰って大学教員・研究職としてキャリアを積まれている方など、世界各地で活躍しています。

当時の私の研究室は、博士学生やリサーチアシスタント、短期滞在の研究員も含め、欧州を中心に世界中から若い才能が集まり、小さいながらも国際的で活気にあふれたものでした。私が所属していた脳・認知科学研究センターも、世界中から人が集まる国際的な組織となっておりました。折に触れてCultural Evening という、教員や研究員、学生が自国の文化や料理を紹介するイベントも開催しており、私も着任直後の2006年にJapan　Evening　を主催して、焼きおにぎりや唐揚げ、餃子、枝豆などを日本のビールや日本酒と共に振る舞い、それなりには好評をいただいた記憶もあります。

浜松医大に着任してからも、当時の同僚や、当時私が指導した学生の皆様が起点となって人脈が生まれ、その結果本学を訪問してくれる外国人研究者も多く、私が主宰する子どものこころの発達研究センターの国際化にもつながっております。また、コロナ禍の頃に当時の学生の一人と始めた、ビデオ会議やVR空間など、オンライン空間での対人相互作用に関する実験心理学的な研究が、その後日本学術振興会の学術変革領域Aに採択いただいた「共在研究領域」を立ち上げるきっかけの一つにもなるなど、当時の研究が発展することにより、今の研究活動にもつながっております。加えて、国際会議や海外出張の折に当時の学生と再会する機会も増えてきており、それぞれに活躍されているのを見るにつれ、なんとも言えない嬉しい気持ちになることもあります。

浜松医大も、積極的に外国人留学生の受け入れを行なっており、毎年多くの学生たちが博士号を取得し、巣立っていきます。彼ら・彼女らが楽しい思い出を胸に、日本や世界各地で活躍してくださるよう、国際化推進センターとしてもしっかりとバックアップを進める必要性を感じております。多様な才能が浜松の地でふれあい、相互に刺激し合うことにより、新たな研究や人財が今後も生まれ続けることを期待します。

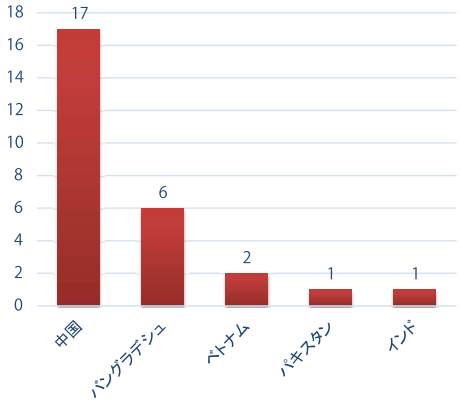
私費外国人留学生へ奨学金給付

私費外国人留学生の経済支援として、「国際交流奨学金」を27名に支給しました。

- **1人あたり給付額**　1～10万円／月
- **給付総額（年間）**　2,622万円

※外部奨学金受給者は、月額上限15万円から当該受給額を減額した額を支給

奨学金受給者数（国・地域別）



「日本語課外補講」の開催

外国人留学生に、日本での生活に必要な日本語を学ぶ機会を提供することを目的として、「日本語課外補講」を開催しました。

この補講は、日本語習得以外にも日本の生活に必要な基礎知識を学ぶとともに、他の外国人留学生たちと交流する場にもなっています。

- **内　　容**　初級・初中級コース
- **講　　師**　外部講師　2名
- **期　　間**　通年
- **回　　数**　各コース2回／週　全40回
- **参加者数**　25名
- **経　　費**　参加者無料（大学負担）



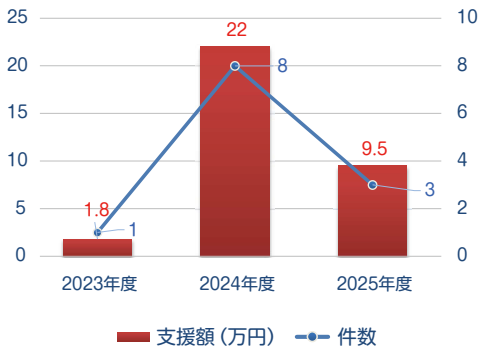


「留学生研究活動旅費」の支援

外国人留学生の研究活動支援を目的として、学会発表や参加、他の研究機関等での資料収集等に必要な国内旅費の一部を支給し、経済支援を行いました。

- **年間支給総額**　9.5万円（3件）

年度別支援実績



国際交流会館の整備



外国人留学生の生活環境改善の一環として、以下2件の工事を実施しました。

①世帯棟 夫婦室全室のガス給湯器の更新
（設置後13年経過）

● **総工事費**　85.1 万円

②世帯棟2室の夫婦室のユニットバス改修

● **総工事費**　198万円



ダイバーシティスペースの整備

外国人留学生が交流する場として設置された「ダイバーシティスペース」は、ムスリムなどが信仰に基づいて礼拝をおこなう際にも利用されています。

これまで、可動式パーテーションを移動させて礼拝スペースを確保する必要がありましたが、新たにカーテンを設置し、よりスムーズに礼拝ができるよう整備を行いました。

● **総工事費**　11万円





2025年度実績　国際交流事業

「English Café」の開催

日本人学生が、外国人留学生と交流し、英語でのコミュニケーション能力向上を目的として、英語での交流会「English Café」を本学学生が運営する国際交流サークル「HOPE」と国際化推進センターの共催で実施しました。

● **実施期間**　2025年4月～2026年2月
● **実施回数**　全9回
● **総参加者数**　263人



■「留学生インタビュー」の実施

外国人留学生3名（中国・ベトナム・バングラデシュ出身）に、本学の教員が英語・日本語でのインタビューを実施しました。

当インタビューの様子は、大学ホームページ「浜松医科大学紹介動画」に掲載しています。







留学生インタビュー
International Student Interview

■「留学生研究報告会・ウェルカムイベント」の開催

大学院医学専攻と大学院光医工学共同専攻に所属する3年次外国人留学生が、3年間の研究成果を発表する「留学生研究報告会」を開催しました。

また報告会終了後、4月・10月入学の新入留学生8名を歓迎する「ウェルカムイベント」も開催しました。

- **実 施 日**　2025年10月29日
- **参加者数**　約60名
- **研究発表**　10名









「外国人留学生実地研修旅行」の開催

外国人留学生が、日本の文化・歴史・風土・産業などへの理解を深めるとともに、留学生同士や教職員との親睦を図ることを目的として、「外国人留学生実地研修旅行」を開催しました。

法多山尊永寺やふじのくに茶の都ミュージアム、焼津さかなセンター、駿府城公園、三保の松原を訪れました。

- **実 施 日**　2025年11月14日
- **参加者数**　外国人留学生・その家族33名、引率教職員6名





「国際交流のつどい」の開催

日頃から国際交流事業にご支援をいただいている関係者や地域の皆様をお迎えし、外国人留学生が直接感謝の意をお伝えするとともに、交流や親睦を深めることを目的として、「国際交流のつどい」を開催しました。

- **実 施 日**　2026年3月9日
- **参加者数**　約80名







学生海外留学派遣の支援

海外留学プログラムなどに参加した医学部学生の経済支援を目的として、海外留学支援金1名あたり5万円～8万円の支援金を支給しました。

- **対 象 者**　34名
- **支給総額**　210万円

留学別支援者数内訳	
臨床実習	26名
基礎配属（研究留学）	2名
ハワイ大学語学留学	4名
ネブラスカ大学 医療センター派遣（看護演習）	2名

「海外留学報告会」の開催

海外留学で得た貴重な体験や成果を共有し、また、今後留学を検討している学生が参考にできるようにすることを目的に、「海外留学報告会」を開催しました。







- **実 施 日**　2025年6月26日
- **報 告 者**　19名
- **参加者数**　64名

慶北大学校看護大学の学生訪問・ネブラスカ大学医療センターへの学生派遣

看護学科では、慶北大学校看護大学（大韓民国・隔年派遣）およびネブラスカ大学医療センター（米国）で、看護演習プログラムでの留学を実施しています。

2025年度は、8月に慶北大学校看護大学から看護学生4名を受け入れ、附属病院の見学や看護実習体験のほか、日本人看護学生との交流を深めました。

また、9月には看護学科4年生2名がネブラスカ大学医療センターにおいて研修を行い、米国の医療現場における看護体験をはじめ、チーム医療や日本との制度・考え方の違い、さらに文化体験や現地学生との交流を通じて得た経験および課題について報告会を開催しました。





- **受 入 期 間**　2025年8月4日～8日
- **研 修 期 間**　2025年9月22日～26日
- **報告会実施日**　2025年11月5日

■「医学英語グループ学習」の開催

米国医師免許試験（USMLE）対策の学習モジュールを活用し、医学科学生が自由に参加できる医学英語のグループ学習を毎週1回オンラインで開催しました。



- **実施期間**　2025年4月～2025年7月
- **実施回数**　11回
- **参加学生数**　13名

■「Journal Club」への参加

「Journal Club（外国人研究者の指導を受けた静岡大学・浜松医科大学の学生が、英語の学術論文を共同で読解、発表する会・・・光創起イノベーション研究拠点主催）」に本学の学生が参加しました。

【2025年10月15日開催】

- **課題論文**　Sperm-cell DNA fragmentation prediction using label-free quantitative phase imaging and deep learning
- **本学発表者**　医学部医学科2年　2名

【2026年3月2日開催】

- **課題論文**　Quantification of Nerve Fiber Layer Thickness in Normal and Glaucomatous Eyes Using Optical Coherence Tomography
- **本学発表者**　大学院医学系研究科 光医工学共同専攻博士後期課程2年　1名

■「英語での症例発表実技演習」実施

海外臨床実習に参加する学生を対象に、医療現場で必要な英語表現やコミュニケーションスキルを身につけることを目的とした医療面接の指導を実施しました。



- **実施期間**　2025年11月～2026年1月
- **対象者**　23名

■「FD講演会」の開催

教育研究活動の質的向上に向けたFD（Faculty Development：教育能力の開発）の一環として、海外の著名な研究者等を招聘し、以下の講演会を開催しました。

【2025年9月22日開催】



- **テーマ**　「Music in Medicine: Improving the Healthcare Experience of Patients and Caregivers.」
- **講　師**　ロチェスター大学　Jefferson Svengsouk　先生
  Professor, University of Rochester School of Medicine and Dentistry

【2026年2月16日開催】



- **テーマ**　「A Biopsychosocial, Systemic Approach to Physician-Patient Communication: Our Research and Physician Communication Coaching Program」
- **講　師**　ロチェスター大学　Susan H. McDaniel　先生
  Dr Laurie Sands Distinguished Professor of Families & Health, University of Rochester Medical Center

「SRM医科大学 病院・研究センターとの合同医学シンポジウム」の開催

SRM医科大学　病院・研究センター（SRM　MCH&RC）（インド）と、学術協定締結後初めての合同医学シンポジウムを開催しました。

● **実 施 日**　2025年8月25日





「第22回慶北ー浜松合同医学シンポジウム」の開催

大邱市（大韓民国）の慶北大学校医科大学・看護大学にて、「第22回慶北ー浜松合同医学シンポジウム」を開催しました。



● **実 施 日**　2025年9月24日～26日
● **参加者数**　27名（浜松医科大学）





慶北大学校（大韓民国）との業務協定を締結

大邱市（大韓民国）の慶北大学校（本部）と浜松医科大学は、長年にわたる慶北大学校医科大学との交流関係を基盤とし、新たに業務協定を締結しました。

両大学は、海外研究開発拠点センター（GIC-R:Global Initiative Center for R&D）として、国際共同研究や学生・研究者等交流の発展を推進します。

● **締 結 日**　2026年1月30日



留学生の言葉

大学院医学系研究科　医学専攻博士課程４年
細胞分子解剖学講座
（中国出身）　LIU Mengya


三保松原の海岸

私はLiu　Mengyaと申します。現在、浜松医科大学細胞分子解剖学講座において、瀬藤光利教授のご指導のもと、博士課程４年に在籍しています。中国北西部に位置する美しい新疆ウイグル自治区の出身です。中国医科大学にて学士課程および修士課程を修了し、神経学を専攻しました。在学中に神経科学および神経疾患への関心を徐々に深め、その経験を通じて、この分野の研究を続けるようになりました。

先生方や仲間からの推薦と応援があり、私は博士課程に進学するため浜松医科大学へ入学しました。日本に初めて来たときは、言語や生活習慣、研究環境など、すべてが新しい経験でした。これまでの数年間を振り返ると、研究についてほとんど知識のなかった私が、現在では自ら考え、実験を計画し、実施できるようになるまで成長することができました。この過程でご指導いただいた先生方、研究室の仲間や友人たちの支えに、心より感謝しています。

現在、私は神経変性疾患を対象とし、細胞内における疾患関連タンパク質およびその分子メカニズムについて研究しています。昨年には、指導教員や研究室の仲間の協力のもと、総説論文を無事に発表することができました。この経験を通じて、研究における忍耐力、批判的思考、そして継続的な学びの重要性をより深く理解しました。

現在、博士課程で3年が経過し、卒業まで残り約1年となりました。卒業が近づくにつれ、先生方やクラスメート、研究室での生活、そして浜松の落ち着いた環境に、より一層愛着を感じています。卒業後は、神経変性疾患の研究を継続し、将来的には神経学分野への貢献を目指したいと考えています。

研究以外でも、私は日本での生活をとても楽しんでいます。食べることが大好きで、特に浜松餃子、寿司、うなぎ丼、焼肉、ラーメンが気に入っています。また、時間があるときには旅行も楽しんでいます。忙しい日々ではありますが、日本のさまざまな場所を訪れ、自然の美しさや各地の文化に触れる機会に恵まれてきました。桜の下を歩いたり、富士山周辺を訪れたり、奈良で鹿と過ごしたりした時間は、どれも忘れられない思い出です。日本での留学生としての生活は、私にとって生涯大切にしたいかけがえのない経験になると思います。


東京ディズニーシー　　富士山を望む湖畔にて

卒業留学生からのお便り

ウィスコンシン医科大学
がんセンター
上級研究員
Md Al Mamun, Ph.D.



現在勤務するウィスコンシン医科大学の前で

夢を抱いて、バングラデシュから日本、そしてその先へ

バングラデシュで学生だった頃、私は研究者になることを夢見ていました。科学によって生命の謎を解き明かし、最終的には人々の健康の向上に貢献できるという考えに強く惹かれていたからです。しかし、ラジシャヒ大学で学士号および修士号を取得した後、先進的な設備や技術が限られているバングラデシュで、最先端の研究を追求することは容易ではないことに気づきました。それでも、こうした困難が私を諦めさせることはなく、むしろ、より広い可能性を求めて世界へ目を向けるきっかけとなりました。適切な教育と環境があれば、思い描いていた研究者になることができると私は信じていました。

その機会は、2017年に浜松医科大学博士課程への進学を果たしたことで訪れました。博士課程に入学できたことは、私の人生における大きな転機でした。それは大学から提供された奨学金があったからこそで、この支援によって、私は博士課程での学びを実現することができました。私の可能性を信じ、夢の実現を支えてくださった浜松医科大学、そして素晴らしい指導教員である瀬藤光利教授に、心より感謝しています。

バングラデシュを離れ、日本で生活を始めることは、期待に満ちたものでした。一方で、新しい文化に適応することは大変で、私にとって大きな学びの連続でした。中でも最大の課題は、日本語でした。書類の手続きや買い物など、日常の何気ないことさえ、困難を感じることが多くありました。浜松医科大学では日本語補講を受講できたので感謝しています。その授業は、日常生活を送るうえで大きな助けとなりました。また、書類の手続きから実験に至るまで、いつでも快く助けてくれるすばらしい研究室のメンバーに恵まれたことも、私にとって大きな支えとなりました。

学術面では、浜松医科大学は私のキャリア形成に大きな影響を与えてくれました。私は、疾患のメカニズムの解明や、バイオマーカーおよび治療標的の探索を可能にする強力な技術である「イメージング質量分析」を専門としました。多様な背景を持つ研究者たちと共同研究を行う機会にも恵まれ、その成果として約30本の学術論文を発表するとともに、国際的な研究者としての視野を広げることができました。

2021年に博士号を取得後、博士研究員として浜松医科大学の瀬藤研究室にて2025年3月まで研究を継続しました。同時に、株式会社プレッパーズにおいて、日本のさまざまな企業および大学と連携しながら、多様なプロジェクトに従事しました。

現在、私は米国のウィスコンシン医科大学がんセンターの質量分析コア部門にて上級研究員として勤務しています。科学的観点から助言をし、最先端の質量分析技術を用いて、がんをはじめとする複雑疾患の研究支援に従事しています。

活動の拠点は米国へと移りましたが、日本への思いは今も心の中に残っています。日本で過ごした年月は、学術的に大きな転機であっただけでなく、私にとって忘れがたい時間となりました。人々の優しさ、規律と敬意を重んじる文化、そこで築いた友情、四季折々の美しさ、桜や浜名湖、富士山の景色は、今も私に力を与え、前へ進む原動力となっています。また、日本で生まれた娘のMaryamは、日本での特別な時間を常に思い起こさせてくれる存在であり、日本とのつながりを一層強いものにしてくれています。日本での生活が恋しく、これからも幾度となく訪れることができればと願っています。

現在および未来の学生の皆さんに一つだけメッセージを伝えられるとすれば、それは、「どんな状況にいても、自分の夢を追い続けてほしい」ということです。たとえ限られた環境にいても、あるいは夢をかなえる機会が遠いと感じていても、好奇心、努力、粘り強さ、そして指導者や教育・研究機関からの支えが、思いもよらない未来への扉を開いてくれるはずです。



ナイアガラの滝にて、アメリカとカナダを結ぶボートツアーから壮大な景色を満喫



第74回ASMSカンファレンスで訪れたサンディエゴ・コンベンションセンターにて、サンディエゴ湾の美しい景色を背景に



東京スカイツリーにて、東京の街並みを一望

学術交流協定校紹介

浜松医科大学は、24大学（12の国と地域）と大学間交流協定を締結しています（2026年6月現在）。今回は、2023年12月に協定を締結した中国の桂林医科大学をご紹介します。



学部構成

- 基礎医学
- 臨床医学
- 薬学
- 人工知能医学
- 看護学
- 検査医学・バイオテクノロジー
- リハビリテーション医学
- 公共衛生学
- 口腔医学
- 国際教育学
- 継続教育学
- 人文・管理学

桂林医科大学は、中国・広西チワン族自治区の景勝地として名高い桂林市に位置する1935年創立の歴史と伝統を有する高等教育機関です。教育・研究体制の充実を経て、2025年には「桂林医学院」から「桂林医科大学」への名称変更が正式に認可されました。また同年には創立90周年という重要な節目も迎え、長年にわたり地域医療の発展および優れた医療人材の育成に貢献してきた実績が広く評価されています。

同大学は中国教育部の「卓越医師教育養成計画」対象校として、臨床能力を重視した医師を養成しており、附属病院や多数の臨床実習病院を活用した実践的かつ体系的な医学教育を展開しています。基礎医学から臨床医学まで一貫して学ぶ教育体制のもと、地域医療に根ざした実践力の高い医療人材を育成しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本学との協定締結に向けた来日が延期となる中、同大学よりマスクをご寄贈いただくなど、多大なご配慮を賜りました。2023年の協定締結以降、本学学生が臨床実習のために同大学を訪問するほか、本学においても研究留学生の受入れを行っています。今後も教育・研究・人材交流の各分野において、さらなる交流の深化と協力関係の発展が期待されます。





国際交流概況

外国人留学生（2026年7月現在）

国　名	大学院医学系研究科						医学部		大学院継続研究生	総計
	医学専攻		光医工学共同専攻	看護学専攻		合計	医学科	看護学科		
	博士課程		博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程					
	国費	私費								
中国		15	1			16			3	19
バングラデシュ	3	4	1			8				8
ベトナム	2	2				4				4
パキスタン	2		2			4				4
インド		1				1				1
大韓民国						0	1			1
合計	7	22	4	0	0	33	1	0	3	37

2026年度 短期･中期留学生受入

内　容	国･地域	在籍大学	備考	人数
臨床実習	中国	上海交通大学医学院	協定校	2
	ポーランド	ビャウィストク医科大学	協定校	1
	ドイツ	デュッセルドルフ大学	協定校	4
	台湾	台北医学大学医学部	協定校	3
	ハンガリー	ペーチ大学	IFMSA	1
	マルタ	マルタ大学	IFMSA	3
	スペイン	バルセロナ大学	IFMSA	1
研究留学	タイ	タマサート大学チュラポーン国際医学部	協定校	3
	ドイツ	ブラウンシュヴァイク工科大学	協定校	1
	ギリシャ	国立カポディストリアン･アテネ大学	IFMSA	1
	オランダ	マーストリヒト大学	その他	1
			合計：	21

※2026年7月時点の予定人数



IFMSA について

IFMSA（International Federation of Medical Students' Associations）（国際医学生連盟）は、WHO（世界保健機関）やWMA（世界医師会）によって正式に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生NGOです。「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことをVisionとして活動しています。このIFMSAの臨床交換留学プログラムにより、日本の医学生が海外の病院で臨床研修を行うとともに、現地の医学生との交流を通じて相互理解を深めています。また、留学生を受け入れて世界とつながる機会を持つことができます。

2026年度 海外留学派遣

内　容	授業科目	国･地域名	研修先大学等	備考	人数
臨床実習	臨床実習Ⅱ	中国	上海交通大学医学院	協定校	1
		ドイツ	フライブルク大学医学部	協定校	1
			デュッセルドルフ大学	協定校	3
		ポーランド	ビャウィストク医科大学	協定校	2
			ワルシャワ医科大学	協定校	3
		台湾	台北医学大学医学部	協定校	2
		大韓民国	慶北大学校医科大学	協定校	3
		タイ	タマサート大学チュラポーン国際医学部	協定校	2
		米国	ハワイ大学	協定校	1
		リトアニア	ヴィリニュス大学病院サンタロスクリニック	IFMSA	1
		デンマーク	ランダース病院	IFMSA	1
		英国	グラスゴー大学医学部	その他	1
		フランス	ボルドー大学病院	その他	1
		シンガポール	シンガポール国立大学	その他	2
		ケニア	医療キャンプ	その他	1
研究留学	基礎配属	ドイツ	ブラウンシュヴァイク工科大学	協定校	1
			（派遣先調整中）	IFMSA	1
			（派遣先調整中）	IFMSA	1
			ドレスデン工科大学耳鼻咽喉科研究所	その他	1
		チェコ	（派遣先調整中）	IFMSA	1
		ポーランド	（派遣先調整中）	IFMSA	1
		タイ	マハサラカム大学	その他	1
語学留学	海外研修Ⅰ･Ⅱ	ドイツ	デュッセルドルフ大学夏季語学研修	協定校	1
研修		米国	ハワイ大学夏季ワークショップ	協定校	1
国際看護演習		大韓民国	慶北大学校看護大学 *1	協定校	4
		米国	ネブラスカ大学医療センター	協定校	3
国際サービス･ラーニングⅢ		ケニア	医療キャンプ	その他	7
				合計：	48

2026年7月時点の予定人数。
単位認定年度で計上（国際サービス･ラーニングは履修対象外の学生も含む）。
ハワイ大学語学留学、単位認定を伴わない留学は実施年度で計上。
*1　毎年交互に学生を派遣する相互派遣方式での実施のため、本学からの派遣は隔年となる。

国際交流協定・姉妹校

2026年5月1日現在

大学名等（国・地域名）	締結開始日	協定等の内容
中国医科大学（中国）	1988.4.29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学（大韓民国）	1992.9.7	学術交流協定
慶北大学校看護大学（大韓民国）	2005.9.23	学術交流協定
上海交通大学医学院（中国）	2000.3.24	学術交流協定
フライブルク大学医学部（ドイツ）	2003.6.30	学術交流協定
河南中医薬大学（中国）	2003.12.8	学術交流協定
ビャウィストク医科大学（ポーランド）	2004.4.19	学術交流協定
ダッカ大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラール科学技術大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
バングラデシュ医科大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
広西医科大学（中国）	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学（ポーランド）	2010.4.1	学術交流協定
ルブリン医科大学（ポーランド）	2010.4.5	学術交流協定
デュッセルドルフ大学（ドイツ）	2012.8.9	学術交流協定
ハワイ大学（米国）	2012.9.6	学術交流協定
ヒッタイト大学（トルコ）	2013.12.17	学術交流協定
フィレンツェ大学（イタリア）	2017.11.24	学術交流協定
ルワンダ大学医学・保健学部（ルワンダ）	2018.3.6	学術交流協定
タマサート大学チュラポーン国際医学部（タイ）	2018.4.24	学術交流協定
ネブラスカ大学医療センター（米国）	2020.6.22	学術交流協定
桂林医科大学（中国）	2023.12.5	学術交流協定
台北医学大学医学部（台湾）	2024.2.22	学術交流協定
ブラウンシュヴァイク工科大学（ドイツ）	2024.10.3	学術交流協定
SRM医科大学 病院・研究センター（インド）	2024.10.22	学術交流協定

浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

国際化
推進センター
WEB SITE

浜松医科大学
基金